

# イスタ

Akita Prefectural University

学生自主研究 STUDENTS' VOLUNTARY RESEARCH PROJECTS 02

Report. 1

## 書院造の研究

書院造研究グループ

Report. 2

## 雑草の遊びと食

雑草の遊びと食グループ

研究者紹介 ISUNA-INTERVIEW. 03-04

FILE. \*01 嵯峨宣彦 FILE. \*02 佐藤宗純

FILE. \*03 岩野君夫 FILE. \*04 津田 渉

ニュース&トピックス 01

学生スタイル [ 在校生 インタビュー ] 05-06

公開講演会・公開講座 07

# NEWS & TOPICS

全学

## 平成19年度 入学式開催

4月6日に平成19年度入学式を開催致しました。大学院、学部、編入学合わせて477名の新入生を迎えることとなりました。式では、小林俊一学長より「理系の大学ですが、広く文学や哲学や芸術にまで視野と教養を広げバランスの取れた人間になってほしい」と式辞があり、新入生が真剣に聴いていました。

学長の式辞に続き、代表の新入生は「日々の発見を大切に、未来の大きな目標に向かって、無限の可能性を開くことを誓います」と宣誓を行いました。入学式が終わった後は、各サークルの勧誘が盛んに行われ、新入生の多くは色々なサークル勧誘のチラシを両手一杯に抱えて会場を後にしました。また、共通施設棟では竿燈会による演技が行われ、入学式を盛り上げていました。



## 秋田県立大学と北都銀行の連携協力協定の締結について

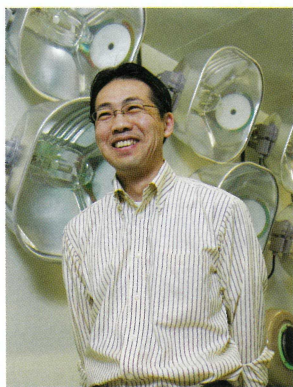
北都銀行とは、これまで情報交換やビジネスイベント等を通じて協力関係を築いてきましたが、このたび地域経済の活性化と地域社会の発展をめざした連携協力協定を締結しました。今回の協定により、北都銀行が地域の企業と本学との橋渡しをすることになり、銀行を介して本学の研究成果が企業に紹介され、企業の技術相談や研究開発ニーズが本学に紹介されることになりました。これにより、企業との共同研究や企業への研究成果の技術移転が期待されます。尚、金融機関との連携協力協定は、秋田銀行に次いで、今回が2例目となります。



システム科学技術学部

## 長谷川兼一准教授 日本建築学会奨励賞受賞!

4月11日長谷川兼一准教授が、日本建築学会奨励賞を受賞しました。この賞は、近年中に発表された獨創性・萌芽性・将来性のある建築に関する優れた論文等の業績に対して贈られるものです。対象論文は、「熱環境から見た冬期の居住性能に関する地域特性の推移—東北地方都市部を対象とした20年間の変化—」。過去20年間の推移を明らかにするという点で、他の研究例にはない特徴を有しており、東北地方のような寒冷地では、暖房時の室内環境の質を向上させるとともに、消費エネルギー削減への配慮の重要性を示す説得力のある結果を提示しています。



## 本学共催のROBOMECH 2007 in Akita 過去最高の1,500人以上が参加

5月10日から12日まで、(社)日本機械学会主催のロボティクス・メカトロニクスに関する国内最大の講演会「ROBOMECH 2007 in Akita」が秋田市のアルヴェなどで開催されました。本学は共催団体として参加、機械知能システム学科の長南征二教授が実行委員長を務めるなど、学科関係教員が運営の主力を担いました。今回の講演会では、参加者数・研究発表数ともに過去最高を記録、1,500人以上の参加者のもと、920件あまりのポスター講演が活発な議論の中で行われ、本学は地元大学としての役割を果たし、講演会の成功に貢献しました。



生物資源科学部

## 低温でも窒素固定活性が高い根粒菌を発見! 特許出願中!

土壌改良や緑肥として最近注目されているヘアリーベッチというマメ科植物は、比較的低温な東北地方や北海道では植栽が難しく、あまり普及していません。そのような中、生物環境科学部の佐藤孝助教の研究室では、低温でも窒素固定活性が高い根粒菌を発見し、ヘアリーベッチの生育を促進させることに成功しました。現在、この根粒菌をY 629株と名づけて普及させるべく活動中です。また、今後は秋田の大豆栽培に適した「スーパー根粒菌」を探し出して、安定した大豆生産に役立てる為に研究中です。

根粒菌とは：マメ科植物の根についている数ミリの根の根粒の中に住んでいる土壌微生物でバクテリアの一種。根粒菌は大気中の窒素をアンモニアに変換(窒素固定)し、植物の生育に欠かせない窒素をマメ科植物に供給する働きをしている。



フィールド教育研究センター

## 大潟キャンパスでポニーが待っています。

大潟キャンパスのフィールド教育研究センターでは、センター動物広場の第1号としてポニー2頭が5月10日にやってきました。フィールド教育研究センターでは昨年度も研究等に使用する以外に、ダチョウ、牛、豚、ガチョウ、比内地鶏などの動物を、地域貢献の一環として、一般への方や幼稚園の見学、小学生の総合学習などへ開放しました。今年度もセンターの見学や共同研究を募集しています。



- 詳しくはお電話 0185-45-2858、メール等でお問合わせ下さい。
- ◎センターホームページ <http://www.akita-pu.ac.jp/bioresource/F-CENTER>
- ◎メールアドレス [f-center@akita-pu.ac.jp](mailto:f-center@akita-pu.ac.jp)

木材高度加工研究所

## 里山の森林資源を活かした木橋づくり

木材高度加工研究所では、地域資源を活用し魅力的な風景をもつ地域づくりをテーマに、秋田杉を用いた多様な木質構造物の提案を行っています。昨年は、木橋のデザインコンペを行い、能代市の公園に2つの木橋をつくりました。橋の材料には、現地で発生した間伐材を活用しました。今年も、この橋の周辺の遊歩道を木材チップ舗装で整備するなど、木材を活用した景観整備を計画しています。



地域共同研究センター

## 産学連携による純米吟醸酒『雪の想いで』誕生!!

本学は、(株)齋彌酒造店・(株)三栄機械との共同研究により「秋田流の幅のある芳醇なお酒」を誕生させました。昔から「酒の風味は、一に麴、二に甑(もと)、三に造りで決まる」と言われ、麴はベテランの杜氏が勤と経験で造っています。今回、地域共同研究センターの日向野三雄教授が熱力学、流体力学を応用した真空蒸米調湿技術(特許出願中)で麴造りに挑戦しました。同センターが「雪の想いで」の名付け親となり、ラベルもデザインして4月中旬に発売されました。



# 学生 自主研究

Students'  
Voluntary Research  
Projects



## 大学に入ったらすぐに研究をしたい

学生自主研究は新入生と2年生が行うことができる制度です。学生は研究テーマを決定し、グループを組織し、計画を立てて実施することになります。また、指導教員が必要なアドバイスを行い、実験スペースや機材、そして研究資金を交付して、学生の研究をバックアップします。この制度は主役が学生自身です。入学前から興味を持っているテーマやこれから自分が取り組もうとする分野などに積極的に取り組むことができます。

### 応募資格

1・2年次の学生が行うことができます。尚、3年次以降は、本格的に専門分野の研究を行うことになります。

### 研究期間

研究は、その研究を開始した年度内に終わることが原則です。翌年度も引き続き研究を行いたい場合には、再度、応募することができます。

### 研究資金

1件あたり15万円程度を限度として、大学は各研究グループに資金を交付します。研究計画に沿って、計画的に研究を行うことが必要になります。

## システム科学技術学部 建築環境システム学科

## Report. 1

### 研究名

## 書院造の研究（桂離宮）

グループ名>> 書院造研究グループ

### Q 研究の目的を教えてください？

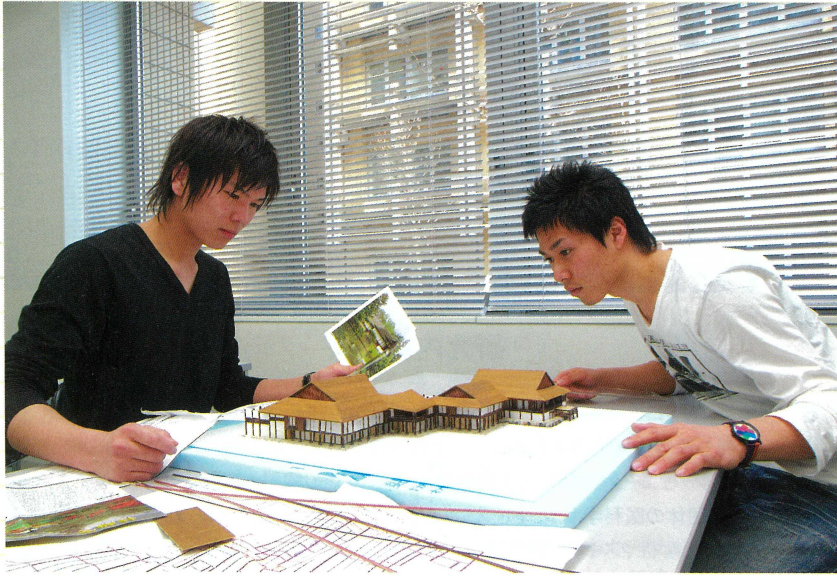
**A** 書院造である桂離宮という日本の古建築を通して、当時の人が何を考えていたのか、なぜ現代の人を魅了するのかを考え、そこから古き良き美意識を学ぶことです。実際に研究対象である桂離宮を訪れ、模型を作りました。またその過程で出てきた疑問、発見を自分たちなりに解釈しました。

### Q 研究の楽しさ、やりがいは？

**A** 自分の興味のあることをある程度ダイレクトにできることです。自主研究ではあえて自分たちの時間を研究に費やすので、そこで得たことは必ず自分の身になっています。そのことは研究をする楽しさにもつながっていると思います。

### Q 自主研究活動の良いところを教えてください

**A** ただ講義を受けているだけでは、大学生活は充実したものにはならないと思います。自主研究は、共通の興味を持つ仲間とともに意欲的に学ぶことのできる機会だと思います。



**増岡 達也**  
愛知県出身  
豊田北高等学校

今回の研究で知ったこと、考えたことを大切にしながら「考える力」を磨きたいです。

**藤本 篤**  
滋賀県出身  
米原高等学校

日本の建築だけではなく、文化についても知ってみたいです。



## Report. 2

## 生物資源科学部 アグリビジネス学科

### 研究名

## 雑草の遊びと食

グループ名>> 雑草の遊びと食グループ

### Q 研究の目的を教えてください？

**A** 雑草には「邪魔である」などの悪いイメージがありますが、実際は古来より私たちの生活文化の一部として共存してきました。その雑草の「遊び」と「食」という面から見つめ、新たな雑草の一面を知り、また次の世代へ雑草文化を伝えていくことが目的です。

### Q 研究の内容について教えてください？

**A** 各世代や地域でのアンケート調査を行い、そこから得られた情報を基に大学祭で展示、ゲームなどを行いました。また秋田県内の雑草の調査・採取を行いました。

### Q 自主研究活動の良いところを教えてください

**A** 自分たちで考え、いろいろなことに挑戦できることです。行き詰まったりもしますが、その都度自分たちで新しい道を考え、発見する力を身につける良い機会となりました。また今回の研究は、昔の自分と向き合う良い機会となりました。



**伊藤 さゆり**  
秋田県出身  
横手城南高等学校

植物観察という趣味が高じて始めた研究でしたが、とても充実したものになりました。

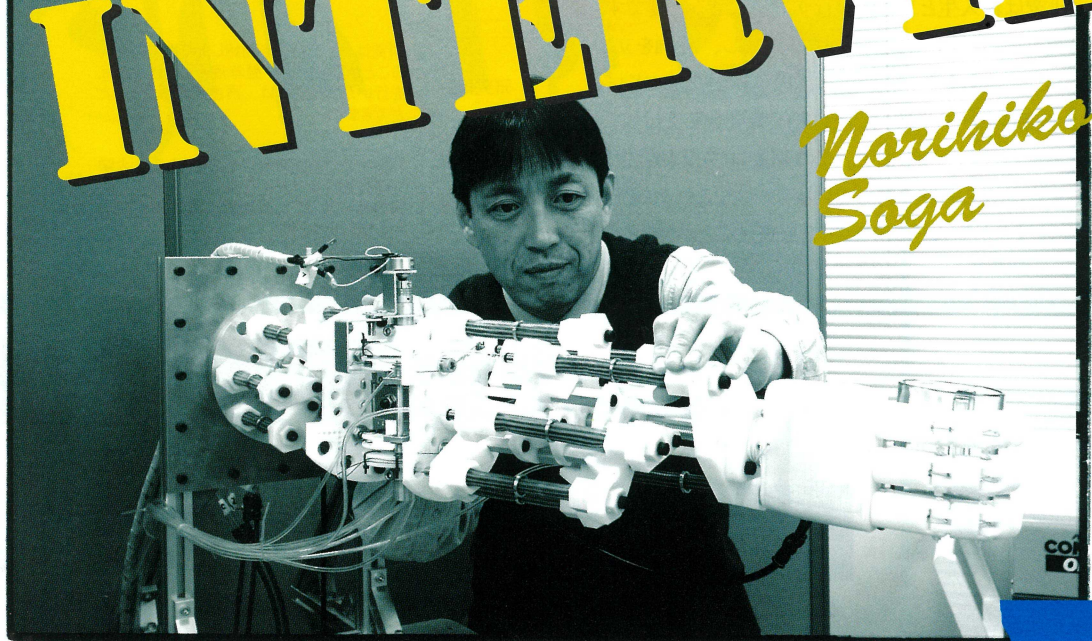
**中川 紗琴**  
秋田県出身  
秋田西高等学校

雑草の「食」という面では、あまり活動できなかったのですが、今回はもっと多くの「食」に挑戦したいです。

**杉沢 和枝**  
秋田県出身  
大曲農業高等学校

幼いころ体験した遊びをあらためて振り返り、なつかしい気持ちになりました。

# ISUNA-INTERVIEW.



Norihiro Soga



研究に欠かせない愛用品

システム手帳とノートPC、ポケット・ハードディスク  
全てのスケジュールが書き込まれている手帳と研究や講義の資料が保存されているHD。メールチェックができるノートPC

\*01  
FILE.

准教授  
嵯峨 宣彦 (サガノリヒコ)

- 機械知能システム学科
- 人間支援メカトロニクスグループ

システム科学技術学部

機械知能システム学科

## 01. 今の研究に取り組むことになったきっかけは?

共同研究先を探している企業から声を掛けられたのがきっかけです。その研究テーマの人工筋アクチュエータはシンプルな構造にも関わらず、柔らかく軽量で高出力なことから将来性を感じたからです。

## 02. 学生時代の思い出は?

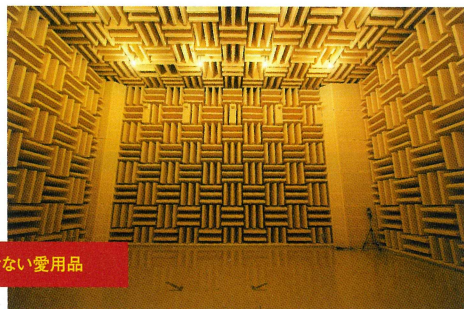
学科の人数が少なかったことや県外者が多く、毎日が合宿生活のようで、私にとって今までで1番人と深く関わった時代で、全てが心に残る深い思い出です。その頃の友人とは未だに付き合いがあり、会うと一瞬で学生時代の関係が蘇ります。

## 研究内容

### ●バイオ・メカトロニクス

生物や人間の運動機能の研究を基に、生体筋の特性を持つ人工筋アクチュエータの開発からこのアクチュエータを利用した介護用ロボットやリハビリ機器の開発を行っています。さらに、秋田国体の医科学サポート・スタッフとなったことをきっかけにロボット技術を応用し、競技動作の解析やスキー・ロボットなどを基に、スポーツ選手の競技力向上のための理想的な競技フォームの研究も行っています。

Faculty of Science  
Systems and Technology



研究に欠かせない愛用品

### 無響室

音の実験には、静かで周囲からの音の反射のない特殊な空間を用いることが必要となります。周囲の壁や天井に音を吸収する材料を取り付けることによって、反射音のほとんどない音空間を実現する施設が無響室です。

\*02  
FILE.

教授  
佐藤 宗純 (サトウソジュン)

- 電子情報システム学科
- メディア情報ネットワークグループ

システム科学技術学部

電子情報システム学科



Sojun Sato

## 研究内容

### ●音場計測技術の研究

騒音から、楽しい会話、心地良い音楽まで、人工的か自然かを問わず私たちの周りには色々な音に満ちています。これらの音の特徴を知り、また音に対して人間がどのように反応するのか、すなわち聴覚における知覚特性などの研究を行う場合には、まず、音の強さやその空間分布、時間的に変化する音の波形など、音の空間(音場)を正確に把握することが必要です。そこで、音場を精密に測定するために必要な計測用マイクロホンの感度校正技術や、目的に合った音場を作り出すための音場計測・制御技術の開発を行っています。

## 01. 今の研究に取り組むことになったきっかけは?

県大へ就任する前からの研究の継続です。音響工学は古くからの学問ですが、まだまだ分からないことが残されている新しい研究分野でもあります。

## 02. 現在の研究は社会でどのように役立ちますか?

音に対する人間の反応を調べ、またその精神的・肉体的な影響を知ることが、騒音対策や快適な音空間の創成、バーチャルリアリティなどの研究につながります。

## 03. 研究の楽しさ、やりがい?

仮説を立て、それを検証し、手をつけていない新たな応用分野を切り開くことです。

人間の未知なる可能性を求め、  
アクティブに挑戦する教員たちを紹介。



*Kimio Iwano*

研究に欠かせない愛用品



**多変量解析ソフト**

お酒の有機酸やアミノ酸などの成分、原料米のタンパク質組成、麹の酵素活性などの分析データはそれだけでは単に数字に過ぎないのですが、このデータをクラスター分析、主成分分析、重回帰分析、判別分析などの多変量解析を実施することにより、それまで目に見えなかったものが見えてきて因果関係がはっきりと分かってきます。数十年前はこのようなデータ解析は大きな電子計算機が必要でしたが、最近は個人のパソコンで簡単に解析できます。

**\*03** 教授 **岩野 君夫** (イワノキミオ)  
●応用生物科学科  
●食品醸造グループ

生物資源科学部

応用生物科学科

**01. 今の研究に取り組むことになったきっかけは？**

前職は国税庁醸造研究所の研究員で日本酒、焼酎の研究を行っていました。平成11年の開学と同時に秋田県立大学に移りましたが、それまでの研究の延長線上で現在の研究を行っています。

**02. 県大の良いところを教えてください。**

新設大学のためゼロからのスタートでしたが、最新鋭の高額な分析機器が購入できて古い機器を使っている他大学に比べて研究面で有利です。また教育も教員一人当たりの学生数は少なく温かい人間関係が得られます。

研究内容

●日本酒の美味しさを探る

「日本酒の美味しさを探る」研究を行っています。これまで、日本酒の美味しさには4つのアミノ酸、アラニン、グルタミン酸、アルギニン、アスパラギン酸が深く関係しており、その他に酵母のアミノ酸代謝により生じるチロソール、β-フェニルエタノール、トリプトホールは「後味」に深く関わっていることを明らかにしました。これらのアミノ酸の生成には酒米のタンパク質組成、麹菌の生産するタンパク質分解酵素、酵母のアミノ酸代謝などが総合的に関わっていますが、それを解明し美味しいお酒を造る醸造技術の確立を目指して研究を続けています。

*Faculty of Bioresource Sciences*

研究に欠かせない愛用品



*Wataru Tada*

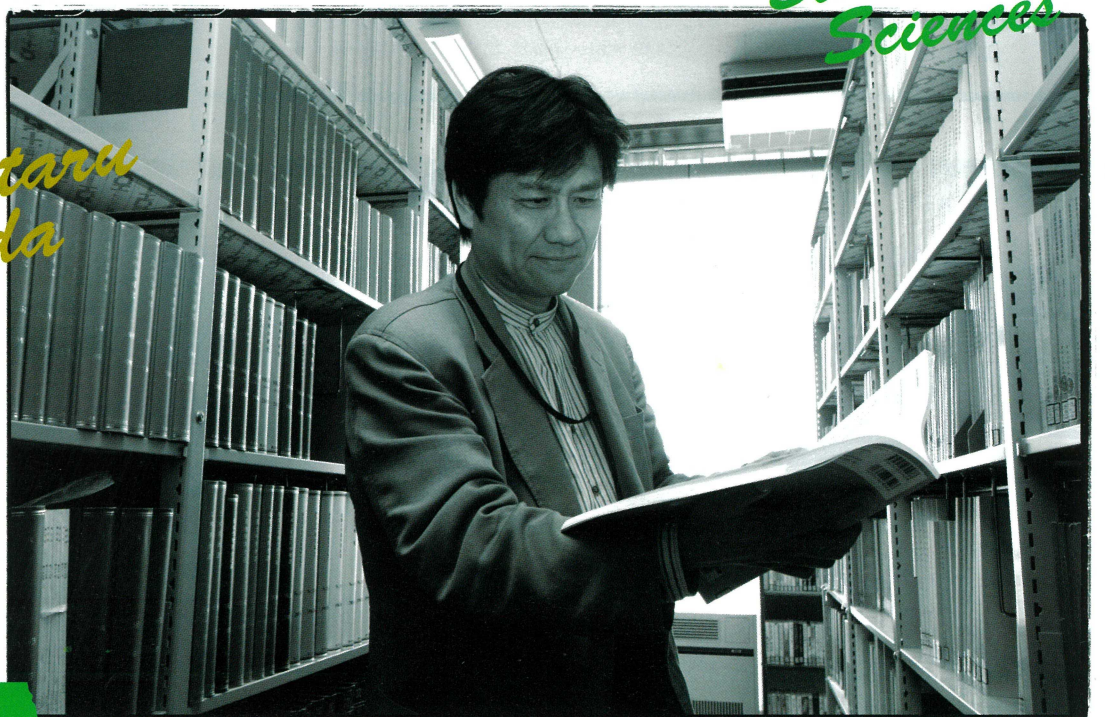
**システム手帳、メモ帳、フィールドノート**

我々、社会科学系、特に、現場での実態調査を重視する領域では、聞いたことをメモに取る、「はっ」と考えついたことをメモしておくという作業の地道な積み重ねが大切です。それを研究室に持ち帰って、科学的に再整理し、論理的に組み立てて、これまでの研究蓄積に照らしながら、現実を踏まえた新たな研究成果として発表するわけです。

**\*04** 教授 **津田 渉** (ツダワタル)  
●アグリビジネス学科  
●農業農村マネジメントグループ  
●園芸作経営プロジェクト

生物資源科学部

アグリビジネス学科



研究内容

①米及び野菜の産地マーケティングの現代的展開に関する研究

②構造転換期にある稲作を中心とした我が国土地利用型農業の企業形態に関する研究

①は秋田県農業の課題、アグリビジネス学科の教育活動に直結する課題です。これからの農業は消費者・関連産業との提携に裏付けられた産地の活動がきわめて重要です。秋田においてそれをどのように進めていくのかについて研究しています。②水田農業において、伝統的な家族経営（農家）によるものづくり（こめづくり等）が大きく変わろうとしています。国の政策によるものばかりではなく、日本の農業の歴史的な転換が進み始めているのだといえます。今後はどんな経営が成立していくのか、秋田に密着しながら研究しています。

*Wataru*

**01. 研究の楽しさ、やりがいとは？**

若いときは、社会の仕組みが読めてくることでした。次は、研究者集団（学会等）の中で、新しい理論的前進がある研究だと認められることでした。いまは、恥ずかしさを棚上げしていれば、現場で努力している経営者や行政マン、農協マンなどの皆さんに、これならなんとか実現できそうなことですね、と実際に使ってもらえる考え方、システム、物事の方向性などを示すことができたとき、あるいは、消費者の皆さんに農業と食べ物はほんとうによくよく考えていかないとね、といわれるようなお話や研究発表ができたときです。

# STUDENT STYLE

在校生  
インタビュー

## 宮川 紗希

●機械知能システム学科2年  
●滋賀県出身  
●米原高等学校

### 01 Voice.



#### ●一週間の時間割

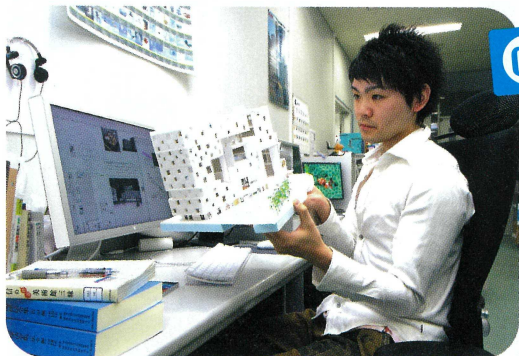
	1	2	3	4	5
月		哲学・倫理学I	工業数学	システム科学演習A	システム科学演習A
火	材料力学I			知能材料学	
水			英会話		プログラミング言語演習
木		熱力学	体育実技II	数学および物理学演習	電磁気学
金		英会話	物理学実験	物理学実験	

#### Q 県大を選んだ理由は?

A 以前から医療や福祉に興味があり、特にそこで必要とされている機器に関心がありました。知能システムについて学び、役に立ちたいという思いが強くなり、この学科を選びました。今はいろいろな分野から工学を学び、技術や知識はもちろん、全体を見通す広い視野を身につけようと日々努力しています。

#### Q 将来の目標は?

A 現在ではあらゆる面で、機械が使われ、技術開発の進歩によりミクロの世界での作業も可能になりました。これからは更により高度な技術と先を見据えた視野が要求されると思います。この大学でしっかり学び、将来人の役に立つ物づくりがしたいと思います。



### 02 Voice.

## 正野 善大

●建築環境システム学科4年  
●山形県出身  
●新庄北高等学校

サークル活動：野菜部  
○サークルをやっていて楽しいこと：野菜を育てること、様々な方々との地域交流

#### ●一週間の時間割

金曜日2限に建築法規があります。それ以外は研究室にいますことが多いです。

#### Q 今までの大学生活で一番楽しかったことは?

A 同じ学科の同級生みんなでの活動です。みんなで企画した運動会は毎年恒例の活動になっています。また定期的に行われる飲み会は、研究室での活動が多くなった4年生にとってみんなと会える楽しい場です。

#### Q 今までの大学生活で一番つらかったことは?

A 設計課題で2、3日寝なかったことです。大学では設計課題が出されるのですが、自分が納得いくものに仕上げるために寝る時間を惜しんで課題に打ち込みます。確かにつらかったのですが期限まで自分の全力を尽くし、提出できたときの充実感は非常に大きいものがあります。

#### Q 県大の好きなところ

A 先生が身近な所ですね。勉強の事はもちろん、進路のことや様々な相談にのってくれます。



愛用グッズはコレ!!

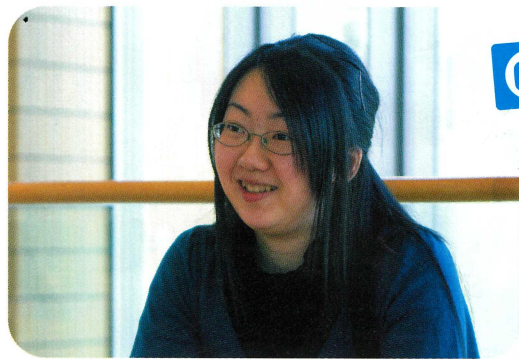
カバン  
白い色が好きで気に入っています。



愛用グッズはコレ!!

ニット帽  
朝、時間のない時に、寝癖を隠せるから

Yoshihiro Masuno



### 03 Voice.

## 桑嶋 彩香

●電子情報システム学科2年  
●秋田県出身  
●本荘高等学校

サークル活動：デジタルアートクラブ  
○サークルをやっていて楽しいこと：本当に自分が好きなことに没頭しているんだ、と実感できること。

#### ●一週間の時間割

	1	2	3	4	5
月	工業数学			体育実技	
火				総合英語	
水				システム科学演習B	システム科学演習B
木		電子回路学I		プログラミング演習	プログラミング演習
金		電磁気学I			



愛用グッズはコレ!!

まめゴマ  
真っ白なアザランが好きなので見ていると癒されます。

#### Q 今、一番力をいれていること

A 時間をうまく使うことです。高校までと違って授業がびっしり詰まっているわけではないので、空き時間は自分で考えて有効に使わなくてはなりません。自分で考えて動く、ということが苦手なのでこれがなかなか難しいです。社会に出てから苦労しないように、今のうちにしっかりと自主性を身に付けたいです。

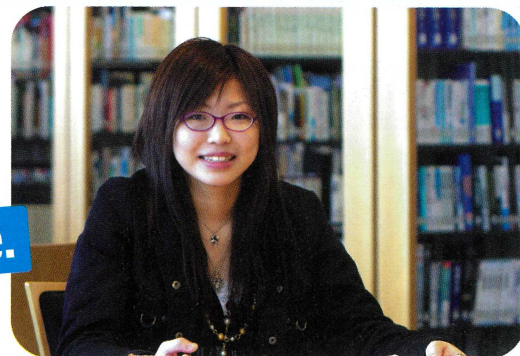
#### Q 今までの大学生活で一番楽しかったことは?

A 空き時間に友人と課題について話し合ったり、雑談をしたりしているときが一番楽しいです。日々の学校生活が楽しくて充実しています。他県から来た友人から、秋田にはない習慣や行事を聞くことも新しい発見が出来て楽しいですね。

## 高橋 成美

●経営システム工学科1年  
●岩手県出身  
●水沢高等学校

### 04 Voice.



#### ●一週間の時間割

	1	2	3	4	5
月	解析学	哲学・倫理学I	社会学I		物理学I
火			科学技術史	コンピュータサイエンスI	コンピュータサイエンスI
水	CALL I	システム科学I			
木		CALL I		基礎物理学	確率統計学
金		線形代数学	創造科学の世界D	体育実技I	



愛用グッズはコレ!!

3年くらい使っているスティッチの鏡  
友達からのプレゼントで、かわいくて落ち着くから

#### Q 県大を選んだ理由は?

A 経営学を文系で扱っている大学が多いなかで、理系視点から経営学を学んでいこうという思考がとても斬新でした。またパンフレットを見て、先輩たちが自らの意志で生き生きと勉強に励んでいる姿を知って、自分もこの大学で学びたいと思いました。

#### Q 県大の好きなところ

A 先輩達がとても親切にしてくれて、アットホームな感じがとても好きです。それに周りが大自然に囲まれていて、海が近いところもまた魅力的です。このような環境で学べるのは県大だけだと思います。

#### Q 秋田について一言

A 岩手とは隣同士なのに、自然環境や天候等が全然違います。日本海側の秋田県は雪が多いと聞いていましたが、本荘は雪が少なく、比較的温暖な気候だと思います。風が強いのに少し驚きましたが、慣れてしまえば住みやすいところです。

Narumi Takahashi

## 佐藤 千瑞

●応用生物科学科3年  
●山形県出身  
●山形東高等学校

サークル活動：劇団半円ぶたい

○サークルをやっていて楽しいこと：違う学科の人たちと仲良くなることができること。



05 Voice.

●一週間の時間割

	1	2	3	4	5
月		食品化学	遺伝子工学	醸造プロセス工学	
火		生理学Ⅰ	専門実験Ⅱ	専門実験Ⅱ	
水			専門実験Ⅱ	専門実験Ⅱ	
木		分子生物学Ⅱ	バイオ機器分析		
金	細胞生物学	実践英語Ⅱ	応用微生物学	就職ガイダンス	

Q 県大を選んだ理由は？

A 就職率のよさと大学院に進学できることが一番の決め手でした。大学を選んだときはまだ自分の進路を決めかねていたの、なるべく選択肢が多いところに行きたかったことが理由の一つです。

Q 今、一番力をいれていること

A 今、大学の勉強以外に資格をとることに力を入れています。様々な知識を持った人間になりたいのでこれからも色々な資格に挑戦していきたいと思っています。もちろん、講義の内容を生かした資格などにもどんどん挑戦していきたいです。

Q 一番楽しい授業はなんですか？

A なんとといっても実験の授業が一番楽しいです。県大は学生数が少ないから自分の実験ができるので、自分の手で操作をし、実験できることがとても楽しいです。失敗も多々ありますが、そこから学ぶことも多いように感じます。



## 小林 大輝

●生物生産科学科2年  
●栃木県出身  
●宇都宮東高等学校

サークル活動：テニス部

○サークルをやっていて楽しいこと：好きなときに自由にテニスができる



06 Voice.

●一週間の時間割

	1	2	3	4	5
月		分子生物学		生物無機化学	有機反応化学
火	土壌学		英会話	体育実技Ⅱ	
水		生物有機化学	遺伝学Ⅱ	英会話	
木	生物化学Ⅰ	作物生態学	化学・生物学実験Ⅱ	化学・生物学実験Ⅱ	
金			生物生産科学実習	生物生産科学実習	

Q 今、一番力をいれていること

A 今、テニスに力を入れています。大会での上位入賞を目指して日々がんばっています。県大テニス部は高校中学くらいからテニスを始めた人もいますが、ほとんどがテニス未経験者です。皆さんも県大でテニスをしましょう。



テニスラケット  
テニス部ですので、もちろんラケットが愛用品です。

Q 将来の目標は？

A 研究者になりたいです。特に熱帯雨林の環境保全に関する研究をしたいと考えています。環境を守るにはたくさんの方がある方法があるので、今は様々な分野の知識を吸収したいと考えています。

Q 高校生へ一言！

A ここはすばらしい教授陣やシステムやサポートに恵まれた、勉強をするのにも社会へ出る準備をするのにもこれ以上ない大学です。高校生の皆さんもぜひ秋田県立大学で私たちと一緒に、充実した学生生活を送りませんか。

## 濱川 智美

●アグリビジネス学科1年  
●沖縄県出身  
●八重山高等学校

サークル活動：山の会

○サークルをやっていて楽しいこと：まだ山には登っていないけど、ロープの結び方などを少し教わりました。クライミングもできるようなので、とても楽しみです。



07 Voice.

●一週間の時間割

	1	2	3	4	5
月		植物学概論	人間の生存と生物資源	コンピュータテラーⅠ	コンピュータテラーⅠ
火	基礎化学	体育実技Ⅰ	CALLⅠ		社会学Ⅰ
水	バイオテクノロジーと人間	生物資源と風土	CALLⅠ		教育心理学
木	心理学Ⅰ	生物学Ⅰ		化学Ⅰ	
金	地球科学	アグリビジネス概論	社会学Ⅱ		数学Ⅰ

Q 今、一番力をいれていること

A とにかく、新しい環境に慣れることだと思います。寮に入ったので、ご飯もお風呂も決められた時間内にすませないといけないので大変です。でも寮に入ると、すぐ友達ができるのでいいですよ。

Q 県大の好きなところ

A 入学式の前日に初めて来たのですが、思っていたより校舎も新しく、施設等も充実しているいい所だと思いました。

Q 秋田について一言

A 秋田に最初着いたときは、山の上に空港があってびっくりしました。そこからの道もずっと畑ばかりで、こんな所でやっているか不安になったけど、慣れたら大丈夫だと思います。秋田の人は皆親切なので、もっと秋田のことを知っていけたらいいと思います。



## 岡崎 大輝

●生物環境科学科4年  
●茨城県出身  
●下館第一高等学校

サークル活動：軟式テニス部

○サークルをやっていて楽しいこと：先輩・後輩と仲良くなれること



08 Voice.

●一週間の時間割

講義は取っていないので、ありません。ずっと研究室にいます。



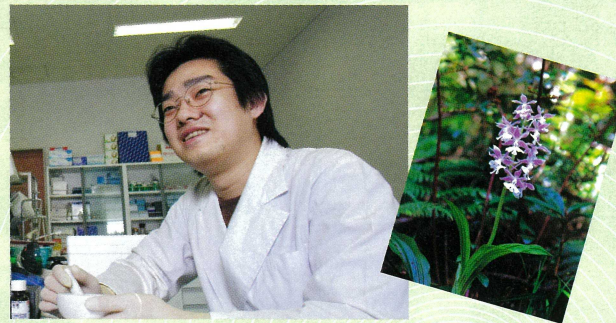
Q 今までの大学生活で一番楽しかったことは？

A 友達や周りの人と目標を持って協力して、それがイベント開催・ブース展示など、「カタチ」となったこと。それが困難であればあるほど、達成した喜びは大きいです。夜を徹しての追い込み作業・イベント当日の慌ただしさ、時間が経っても、鮮明に思い出せると思います。

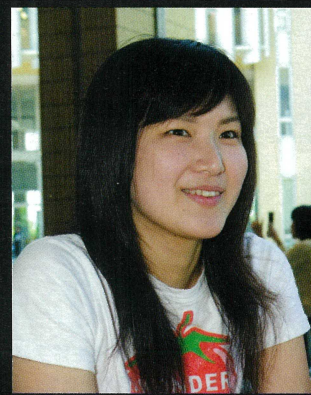
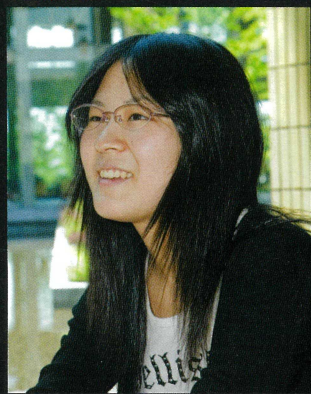
Q 将来の目標は？

A 卒業して社会に出てからも「常に何かを学び、吸収していける」人間でありたいですね。日々進歩、日々成長!そんな精神で頑張っていきたいです。今までの大学生活、それなりに忙しく過ごしてきたつもりですが、まだまだ「これをやっておけば…」というものがあつたりします。そういうのを極力なくせるように、これから歩んでいきたいです。

## 名古屋国際蘭会議で 博士課程川上さんが優秀賞を受賞!



2007年3月14日、名古屋国際蘭会議(NIOC)において、作物生態学講座・博士課程後期3年生の川上清久さんが優秀賞(NIOC賞)を受賞しました。「名古屋国際蘭会議」は、毎年、「あいち花フェスタ」と共同開催される「名古屋国際蘭展」の会議部門になり、様々なランの学術研究をポスターの発表の形式で募集し、優秀賞1点と奨励賞2点が選出されます。今回はこの優秀賞に、川上さんの『御蔵島のニオイエビネ集団におけるウイルスの発生状況と栽培環境下におけるウイルス濃度の変動』が選ばれました。川上さんは「ラン科植物ではウイルス病が非常に大きな問題になっているので、今後も研究を続け社会に貢献したいと思います。」と、今後の目標を話してくれました。



本学では、教員の研究成果や教育内容を公開し、  
 県民の生涯学習ニーズに応えるため、  
 公開講演会・公開講座などを実施しています。

### 公開講演会のお知らせ

テレビでもおなじみの数学者、  
 秋山仁先生をお迎えして講演会を開催します。

日時:平成19年10月14日(日)  
 14:00~15:30(予定)

会場:秋田県立大学講堂(秋田キャンパス)  
 講師:秋山仁氏(東海大学教育開発研究所所長)



### 全学公開講座

平成19年9月8日(土)、15日(土)

会場:カレッジプラザ(秋田駅近く)

### 建築環境システム学科公開講座

平成19年10月20日(土)、27日(土)、11月3日(土)

会場:20日(土)本荘キャンパス  
 27日(土)・3日(土)カレッジプラザ(秋田駅近く)

### アグリビジネス学科公開講座

平成19年12月8日(土)、9日(日)

会場:カレッジプラザ(秋田駅近く)

全ての公開講演会、公開講座はご予約が必要になります。詳細につきましてはお問い合わせ下さい。また、都合により日程等が変更になる可能性があります。



<http://www.akita-pu.ac.jp/>  
 E-Mail [koho\\_akita@akita-pu.ac.jp](mailto:koho_akita@akita-pu.ac.jp)

**【秋田キャンパス】** ●本部・生物資源科学部 ●大学院/生物資源科学研究科  
 〒010-0195 秋田市下新城野字街道端西241-438 TEL.018-872-1500 FAX.018-872-1670

**【本荘キャンパス】** ●システム科学技術学部 ●大学院/システム科学技術研究科  
 〒015-0055 由利本荘市土谷海老ノ口84-4 TEL.0184-27-2000 FAX.0184-27-2180

**【大湯キャンパス】** ●生物資源科学部(アグリビジネス学科3・4年次)  
 〒010-0444 南秋田郡大湯村字南2-2 TEL.0185-45-2026 FAX.0185-45-2377

**【木材高度加工研究所】**  
 〒016-0876 能代市宇海詠坂11-1 TEL.0185-52-6900 FAX.0185-52-6924

